

調査結果の概要

調査の結果、本調査の対象となる都市圏の人口は、調査前年の推定総人口に比べて、増加を続けている。特に、大都市圏の人口は、増加のペースが速く、その割合も大きい。これは、大都市圏の人口集中が進んでいることを示している。また、都市圏の人口は、調査前年よりも増加している。これは、都市圏の人口が増えていることを示している。

## I 調査結果の概要

調査の結果、本調査の対象となる都市圏の人口は、調査前年の推定総人口に比べて、増加を続けている。特に、大都市圏の人口は、増加のペースが速く、その割合も大きい。これは、大都市圏の人口集中が進んでいることを示している。また、都市圏の人口は、調査前年よりも増加している。これは、都市圏の人口が増えていることを示している。

調査結果の概要

調査結果の概要

調査の結果、本調査の対象となる都市圏の人口は、調査前年の推定総人口に比べて、増加を続けている。特に、大都市圏の人口は、増加のペースが速く、その割合も大きい。これは、大都市圏の人口集中が進んでいることを示している。また、都市圏の人口は、調査前年よりも増加している。これは、都市圏の人口が増えていることを示している。

| 調査年度 | 推定総人口      | 調査対象都市圏人口 | 大都市圏人口    | 大都市圏人口割合 | 調査対象都市圏人口割合 | 大都市圏人口割合 | 大都市圏人口割合 |
|------|------------|-----------|-----------|----------|-------------|----------|----------|
| 2000 | 12,150,000 | 4,800,000 | 2,400,000 | 50%      | 39.5%       | 75%      | 75%      |
| 2001 | 12,200,000 | 4,900,000 | 2,500,000 | 51%      | 40.2%       | 75%      | 75%      |
| 2002 | 12,250,000 | 5,000,000 | 2,600,000 | 52%      | 40.9%       | 75%      | 75%      |
| 2003 | 12,300,000 | 5,100,000 | 2,700,000 | 53%      | 41.5%       | 75%      | 75%      |
| 2004 | 12,350,000 | 5,200,000 | 2,800,000 | 54%      | 42.1%       | 75%      | 75%      |
| 2005 | 12,400,000 | 5,300,000 | 2,900,000 | 55%      | 42.7%       | 75%      | 75%      |
| 2006 | 12,450,000 | 5,400,000 | 3,000,000 | 56%      | 43.4%       | 75%      | 75%      |
| 2007 | 12,500,000 | 5,500,000 | 3,100,000 | 57%      | 44.0%       | 75%      | 75%      |
| 2008 | 12,550,000 | 5,600,000 | 3,200,000 | 58%      | 44.6%       | 75%      | 75%      |
| 2009 | 12,600,000 | 5,700,000 | 3,300,000 | 59%      | 45.2%       | 75%      | 75%      |
| 2010 | 12,650,000 | 5,800,000 | 3,400,000 | 60%      | 45.8%       | 75%      | 75%      |
| 2011 | 12,700,000 | 5,900,000 | 3,500,000 | 61%      | 46.4%       | 75%      | 75%      |
| 2012 | 12,750,000 | 6,000,000 | 3,600,000 | 62%      | 47.0%       | 75%      | 75%      |
| 2013 | 12,800,000 | 6,100,000 | 3,700,000 | 63%      | 47.6%       | 75%      | 75%      |
| 2014 | 12,850,000 | 6,200,000 | 3,800,000 | 64%      | 48.2%       | 75%      | 75%      |
| 2015 | 12,900,000 | 6,300,000 | 3,900,000 | 65%      | 48.8%       | 75%      | 75%      |
| 2016 | 12,950,000 | 6,400,000 | 4,000,000 | 66%      | 49.4%       | 75%      | 75%      |
| 2017 | 13,000,000 | 6,500,000 | 4,100,000 | 67%      | 50.0%       | 75%      | 75%      |
| 2018 | 13,050,000 | 6,600,000 | 4,200,000 | 68%      | 50.6%       | 75%      | 75%      |
| 2019 | 13,100,000 | 6,700,000 | 4,300,000 | 69%      | 51.2%       | 75%      | 75%      |
| 2020 | 13,150,000 | 6,800,000 | 4,400,000 | 70%      | 51.8%       | 75%      | 75%      |

# I 調査結果の概要

## 1 農業経営の部門間比較

### (1) 部門農業所得

平成13年の部門農業所得についてみると、土地利用型の稲作や麦類は、118万円、61万円で、農業所得全体に占める割合は56%、21%となっており、他の部門も実施する複合経営が多くなっている。

露地野菜等の労働集約型の耕種部門は240万円～440万円で、農業所得全体に占める割合は66%～82%となっている。

畜産の各部門は、肥育牛が339万円で、農業所得全体に占める割合が71%となっている他は、470万円～800万円と耕種部門に比べ高く、農業所得全体に占める割合は74%～93%と高く、単一経営が多くなっている。

### (2) 労働時間と収益性

当該経営部門の自営農業労働時間についてみると、土地利用型の稲作や麦類は1,000時間未満となっているのに対し、露地野菜等の労働集約型の耕種部門、畜産部門は2,000時間以上となっており、特に、施設花き、酪農及び採卵養鶏は5,000時間以上となっている。

また、家族農業労働1時間当たり農業所得についてみると、土地利用型の稲作や麦類、工芸農作物及び畜産部門は、1,400円～2,400円となっているのに対し、露地野菜等の労働集約型の耕種部門は、740円～960円と低くなっている。

第1表 経営部門別の経営概要

| 経営部門区分  | 農業経営全体  |          |          | 当該経営部門  |                   |         |                  |          |                     |  |
|---------|---------|----------|----------|---------|-------------------|---------|------------------|----------|---------------------|--|
|         | 農業所得    | 自営農業労働時間 | 農業固定資本額  | 部門農業所得  | 農業経営全体の農業所得に占める割合 | 部門農業所得率 | 家族農業労働1時間当たり農業所得 | 自営農業労働時間 | 作付・飼養規模             |  |
|         | 1,000円  | 時間       | 1,000円   | 1,000円  | %                 | %       | 円                | 時間       |                     |  |
| 稲作      | 2 117.4 | 2 368    | 6 660.7  | 1 177.1 | 55.6              | 34.6    | 1 817            | 680      | 246.7a              |  |
| 麦類      | 2 902.9 | 2 154    | 7 799.9  | 610.9   | 21.0              | 23.8    | 2 205            | 284      | 438.2a              |  |
| 露地野菜    | 3 800.5 | 4 687    | 7 486.9  | 2 502.4 | 65.8              | 45.7    | 842              | 3 162    | 165.0a              |  |
| 施設野菜    | 4 503.5 | 5 609    | 8 681.5  | 3 250.7 | 72.2              | 47.1    | 853              | 4 162    | 4 531m <sup>2</sup> |  |
| 果樹      | 2 932.3 | 4 358    | 12 778.3 | 2 382.4 | 81.2              | 40.4    | 744              | 3 651    | 151.8a              |  |
| 施設花き    | 5 322.5 | 6 771    | 14 821.5 | 4 385.9 | 82.4              | 34.0    | 958              | 5 688    | 4 622m <sup>2</sup> |  |
| 工芸農作物   | 4 442.4 | 3 925    | 8 601.4  | 3 032.9 | 68.3              | 48.7    | 1 438            | 2 329    | 248.1a              |  |
| 酪農      | 8 075.3 | 5 899    | 29 510.6 | 7 501.8 | 92.9              | 24.5    | 1 462            | 5 464    | 37.7頭               |  |
| 肥育牛     | 4 808.3 | 3 635    | 41 368.0 | 3 391.8 | 70.5              | 13.3    | 1 501            | 2 376    | 75.8頭               |  |
| 養豚      | 8 907.7 | 4 425    | 33 485.0 | 8 040.5 | 90.3              | 22.7    | 2 387            | 3 709    | 675.7頭              |  |
| 採卵養鶏    | 6 342.3 | 5 971    | 30 321.2 | 4 701.0 | 74.1              | 13.1    | 1 047            | 5 507    | 13 353羽             |  |
| ブロイラー養鶏 | 7 611.0 | 4 387    | 16 489.9 | 6 890.4 | 90.5              | 10.3    | 2 007            | 4 038    | 142 776羽            |  |

## 2 稲作部門経営

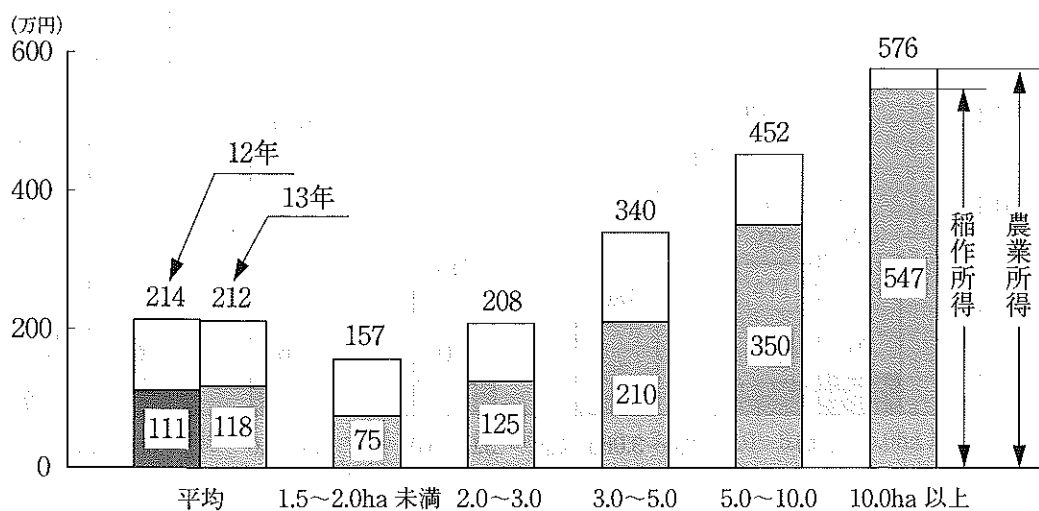
(1) 稲作所得は118万円で、前年に比べ6.5%増加した。

これは、米価格が上昇したことと、稲作経営安定対策資金からの12年産分の補てん金が増加したことにより粗収益が増加したことによる。

一方、農業所得は212万円で、前年に比べ1.0%減少した。

これは、果樹、肥育牛の粗収益が減少したことによる。

図1 稲作部門経営における作付面積規模別の農業所得（農業経営全体・稲作所得）



(2) 水稲作付面積規模別の収益性についてみると、家族農業労働1時間当たり及び農業固定資本1,000円当たり稲作所得は、総じて経営規模が大きくなるに従って高くなっている。

第2表 稲作部門経営における作付面積規模別の稲作所得

| 区分                 | 平均   | 1.5~2.0ha未満 | 2.0~3.0 | 3.0~5.0 | 5.0~10.0 | 10.0ha以上 |
|--------------------|------|-------------|---------|---------|----------|----------|
| 家族農業労働1時間当たり(円)    | 1817 | 1496        | 1768    | 2325    | 2505     | 2544     |
| 農業固定資本1,000円当たり(円) | 343  | 241         | 357     | 503     | 539      | 410      |
| 水稲作付面積10a当たり(千円)   | 47.7 | 43.0        | 52.2    | 54.9    | 52.5     | 43.1     |

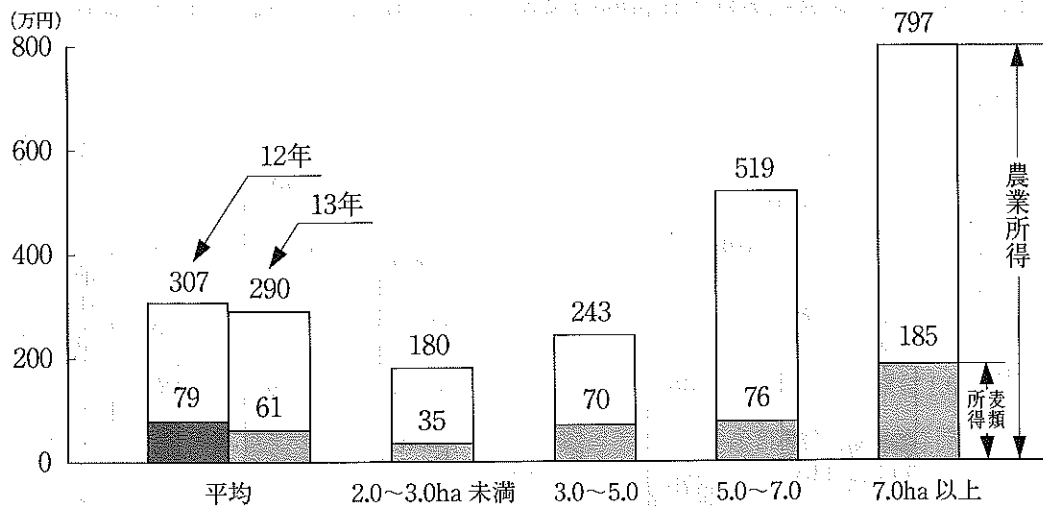
### 3 麦類部門経営

(1) 麦類所得は61万円で、前年に比べ23.0%減少した。

これは、収量は前年並みであったものの、価格が下落したことにより、粗収益が減少したことによる。

また、農業所得は290万円で、前年に比べ5.4%減少した。

図2 麦類部門経営における作付面積規模別の農業所得（農業経営全体・麦類所得）



(2) 麦類部門経営における農業経営全体の粗収益の内訳についてみると、麦類は、都府県では主に水田を中心とする土地利用型農業の一環として栽培されていることから、麦類、稲作で全体の77%を占めている。

一方、北海道では主に畑作の輪作体系の一環として栽培されており、麦類、いも類、工芸農作物が、それぞれ27%、20%、23%となっている。

第3表 麦類部門経営における農業粗収益の内訳

| 区分  | 農業粗収益<br>(千円) | 農業粗収益に占める割合 (%) |      |      |      |      |       |
|-----|---------------|-----------------|------|------|------|------|-------|
|     |               | 麦類              | 稲作   | 豆類   | いも類  | 野菜   | 工芸農作物 |
| 全国  | 9 358         | 27.5            | 25.0 | 8.4  | 10.8 | 9.3  | 12.5  |
| 都府県 | 5 588         | 28.4            | 48.2 | 5.9  | 0.1  | 8.1  | 0.0   |
| 北海道 | 21 615        | 26.7            | 5.5  | 10.4 | 19.8 | 10.3 | 22.9  |

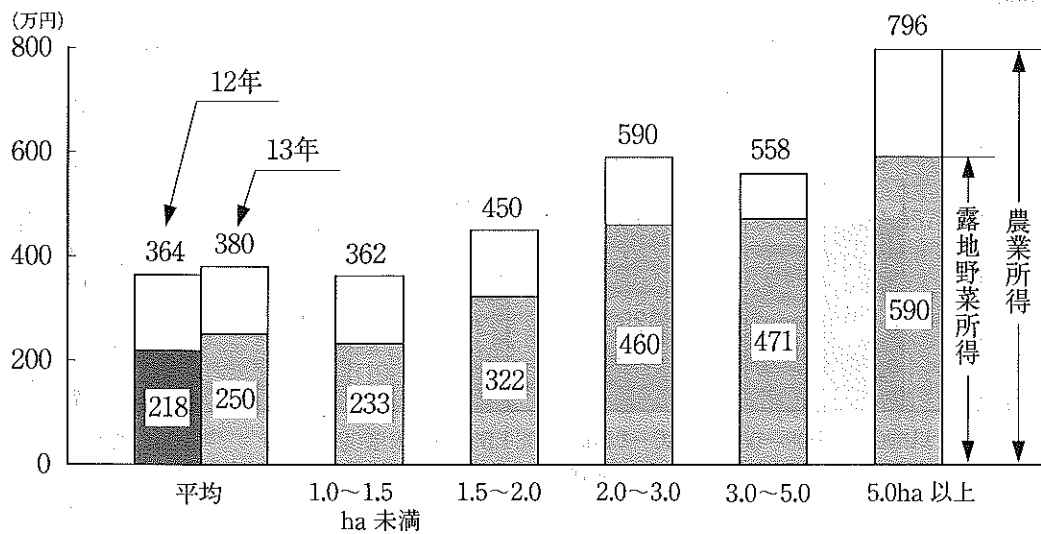
#### 4 露地野菜部門経営

露地野菜所得は250万円で、前年に比べ14.9%増加した。

これは、キャベツ、たまねぎ、はくさい、ねぎ等の価格の上昇により粗収益が増加したことによる。

また、農業所得は380万円で、前年に比べ4.5%増加した。

図3 露地野菜部門経営における作付面積規模別の農業所得（農業経営全体・露地野菜所得）



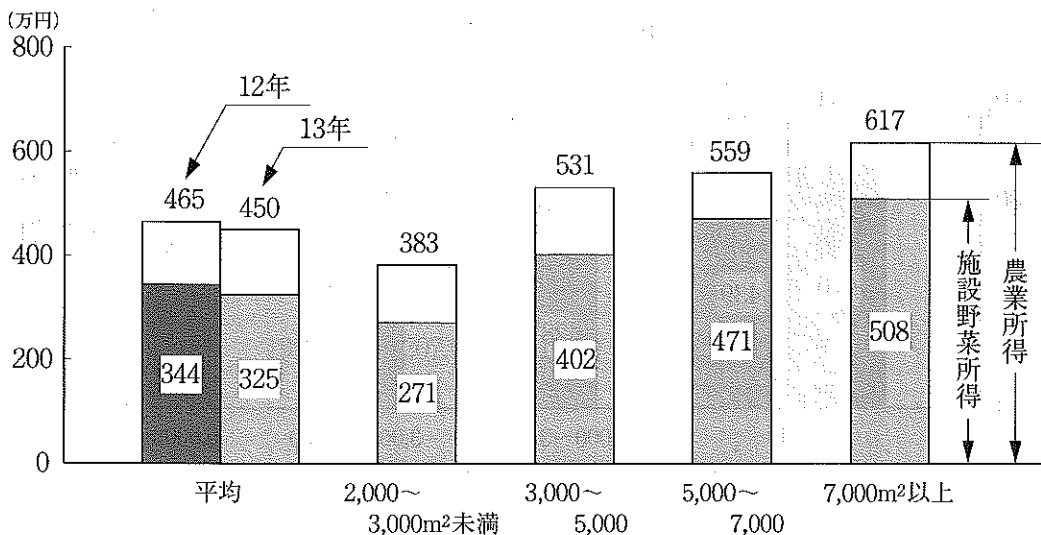
#### 5 施設野菜部門経営

施設野菜所得は325万円で、前年に比べ5.4%減少した。

これは、きゅうり、いちご等の価格の低下により粗収益が減少したことによる。

また、農業所得は450万円で、前年に比べ3.2%減少した。

図4 施設野菜部門経営における作付面積規模別の農業所得（農業経営全体・施設野菜所得）



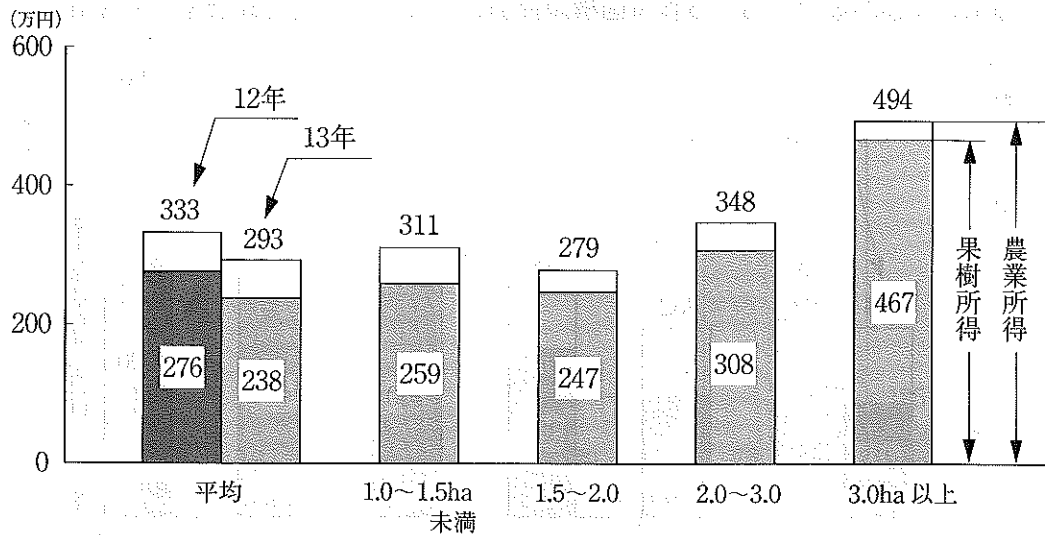
## 6 果樹部門経営

果樹所得は238万円で、前年に比べ13.7%減少した。

これは、みかんの価格が低下したことにより粗収益が減少したことによる。

また、農業所得は293万円で、前年に比べ11.8%減少した。

図5 果樹部門経営における植栽面積規模別の農業所得（農業経営全体・果樹所得）



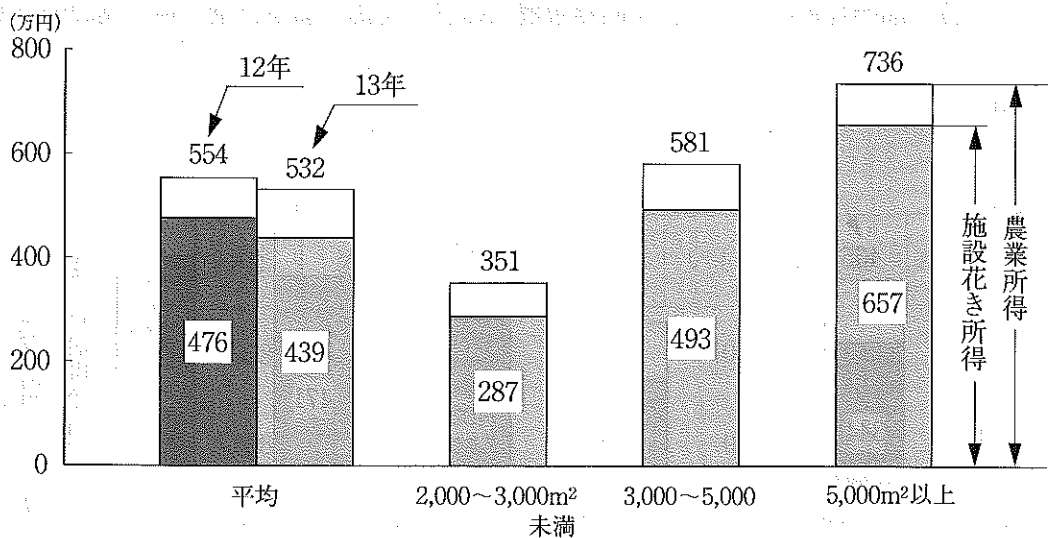
## 7 施設花き部門経営

施設花き所得は439万円で、前年に比べ7.9%減少した。

これは、販売数量の減少及び価格の低下により粗収益が減少したことによる。

また、農業所得は532万円で、前年に比べ3.8%減少した。

図6 施設花き部門経営における作付面積規模別の農業所得（農業経営全体・施設花き所得）

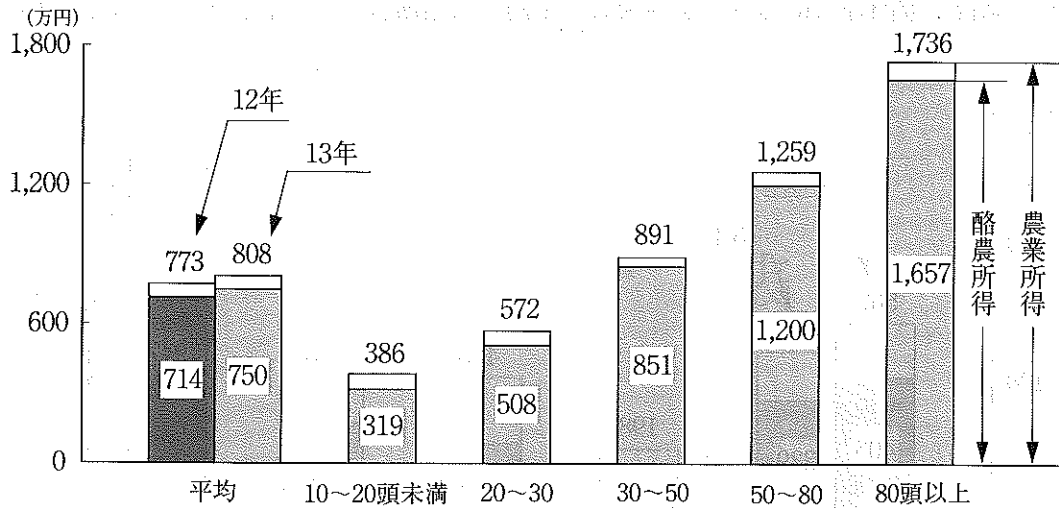


## 8 酪農部門経営

(1) 酪農所得は750万円で、前年に比べ5.1%増加した。

これは、搾乳牛頭数の増加に伴う搾乳量の増加等により粗収益が増加したことによる。  
また、農業所得は808万円で、前年に比べ4.5%増加した。

図7 酪農部門経営における飼養頭数規模別の農業所得（農業経営全体・酪農所得）



(2) 搾乳牛飼養頭数規模別の収益性についてみると、家族農業労働1時間当たり酪農所得は、経営規模が大きくなるに従って高くなっている。

一方、農業固定資本1,000円当たり及び搾乳牛1頭当たりでは、高性能の機械や施設の導入による農業固定資本投入の増大により、経営規模が大きいところで低くなっている。

第4表 酪農部門経営における飼養頭数規模別の酪農所得

| 区 分                        | 平均    | 10~20<br>頭未満 | 20~30 | 30~50 | 50~80 | 80頭<br>以上 |
|----------------------------|-------|--------------|-------|-------|-------|-----------|
| 家族農業労働<br>1時間当たり<br>(円)    | 1 462 | 947          | 1 134 | 1 493 | 1 723 | 2 346     |
| 農業固定資本<br>1,000円当たり<br>(円) | 264   | 342          | 285   | 296   | 262   | 186       |
| 搾乳牛1頭<br>当たり<br>(千円)       | 199.0 | 207.0        | 197.0 | 219.8 | 200.1 | 165.1     |

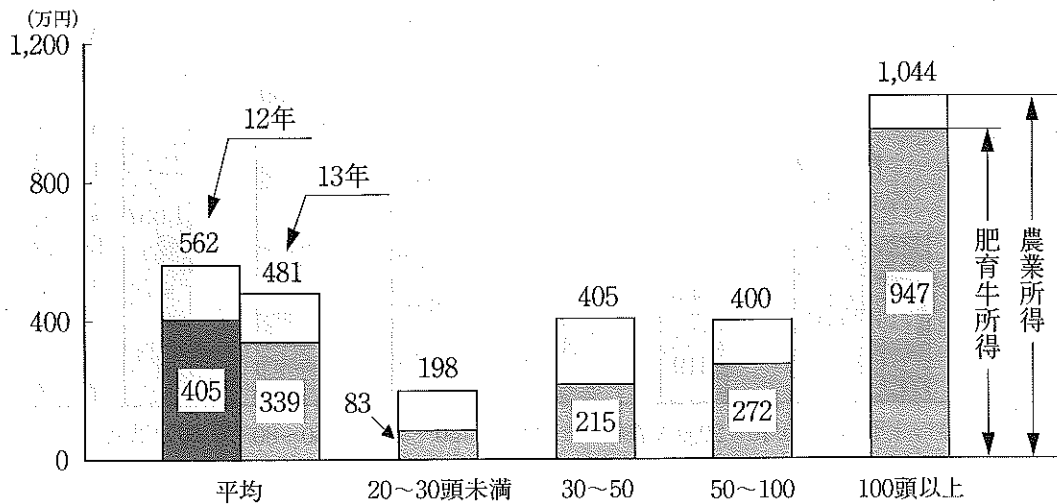
### 9 肥育牛部門経営

肥育牛所得は339万円で、前年に比べ16.3%減少した。

これは、販売頭数の減少及び価格の低下による粗収益の減少、また、飼料価格の上昇による経営費の増加による。

また、農業所得は481万円で、前年に比べ14.5%減少した。

図8 肥育牛部門経営における飼養頭数規模別の農業所得（農業経営全体・肥育牛所得）



### 10 養豚部門経営

養豚所得は804万円で、前年に比べ50.8%増加した。

これは、肉豚価格の上昇及び販売頭数の増加により粗収益が増加したことによる。

また、農業所得は891万円で、前年に比べ44.2%増加した。

図9 養豚部門経営における飼養頭数規模別の農業所得（農業経営全体・養豚所得）

